

## 鴨川等の中州管理について

## ■ 環境調査の実施

## (1) 調査地区

河川名	地区名	管理年度	区間No.
鴨川	四条大橋～二条大橋	H 2 1	①
	賀茂大橋～葵橋（河合橋）	H 2 1	②
	御菌橋～西賀茂橋	H 2 1	③
高野川	高野橋～松ヶ崎人道橋	H 2 1	④

## (2) 現地調査

項目		調査方法
底生動物	定量調査	瀬の部分の3箇所、一定範囲（25cm角）内の底生動物を採取
	定性調査	淵や水際で、採取
ゲンジボタル	幼虫調査	区間内で幼虫を採取、個体数の計測。
植物	植生	区間内を踏査し、相観植生を確認
	植物相	区間内を踏査し、確認種を記録

※ゲンジボタルについては、生息が確認されている区間において、個別の幼虫採取調査を行う。

## (3) 調査時期

項目	調査内容	調査時期			調査区間No.			
		5月	9月	12月	事前・事後調査			
					①	②	③	④
底生動物	定量調査	—●	○●		—●	○●	○●	○●
	定性調査	—●	○●		—●	○●	○●	○●
ゲンジボタル	幼虫調査		○—	(●)				○(●)
植生	相観植生調査		○●		○●	○●	○●	○●
植物相	植物相調査		○●		○●	○●	○●	○●

※ ○：事前調査、●：事後調査、( )は12月実施予定

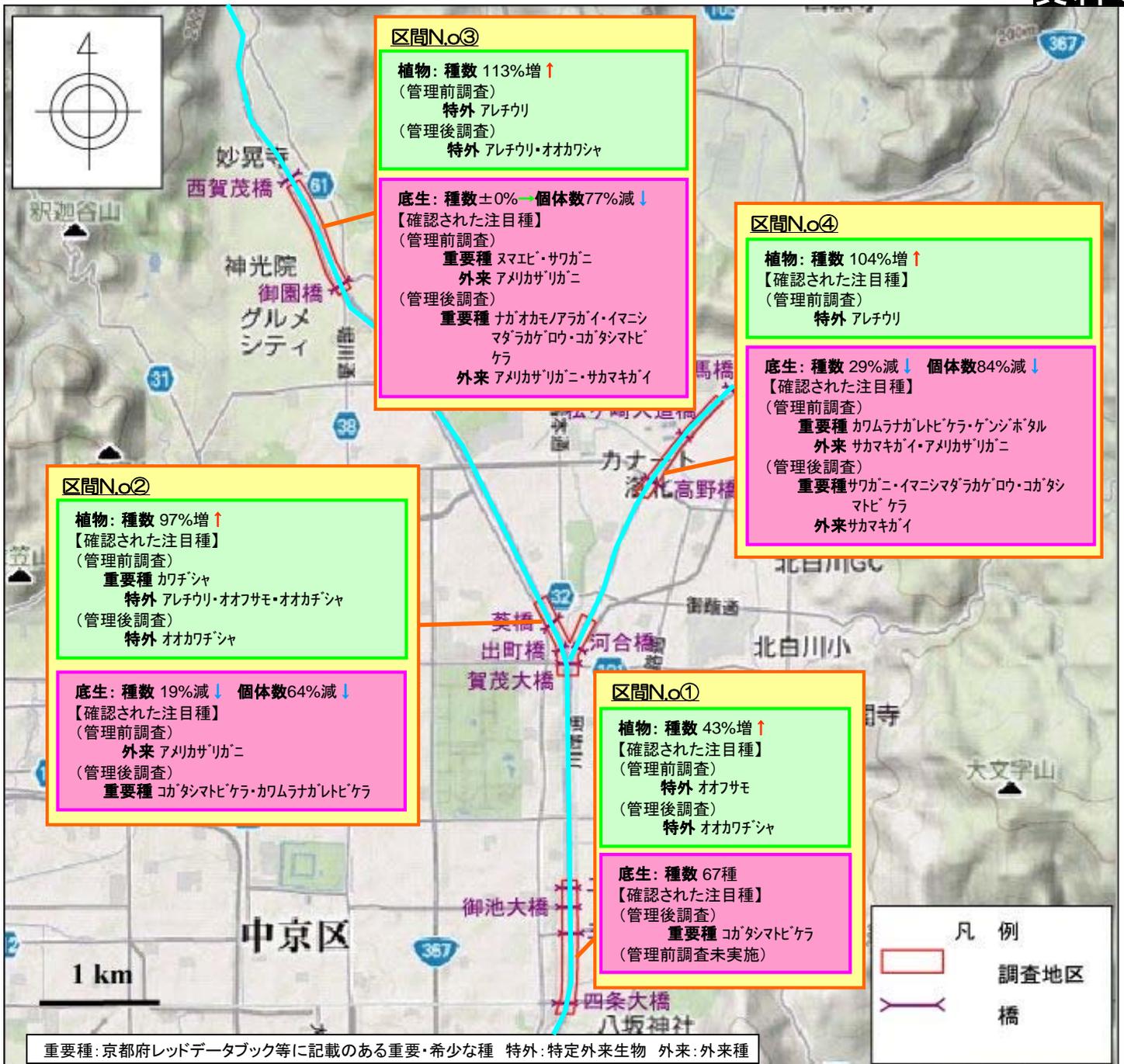
## ■ 調査の結果

## (1) 植物関係

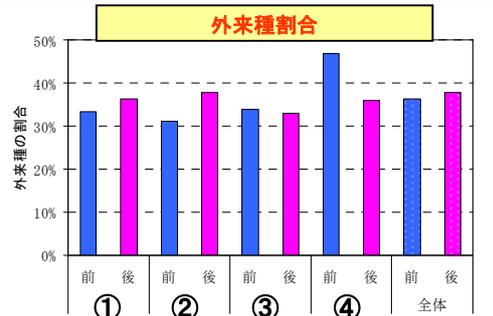
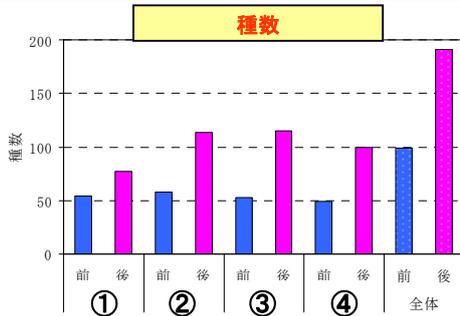
- ・ 全体的に確認種数が事前・事後で約2倍に増加（99種→191種）
  - ▶ 中州管理後の裸地に一年草が多数侵入・定着したためと分析している
  
- ・ 区間②でカワチシャが事前に確認されたが、事後は確認できなかった。
  - ▶ 自然状態でも生育箇所は年により変化するため、因果関係不明
  
- ・ 外来種の割合に変化なし
  - ▶ 今後も継続して確認する予定
  
- ・ アレチウリは事前・事後で生育場所が大きく減少、オオフサモは事前に確認されたが、事後には未確認、オオカワチシャは事前・事後で生育場所が拡大
  - ▶ 今後も継続して確認する予定

## (2) 底生動物

- ・ ユスリカ類（ハエ目）が事前・事後で90%以上減少
  - ▶ 硬化した中州を一部除却するなど手を加えたため、生息場所の砂や泥など堆積物が流されたためと分析している



植物



底生動物

